洛タイ新報

発行所
〒611-0021
宇治市宇治里尻81番地の3
TEL (0774) 22-4109
FAX (0774) 20-1417
URL https://rakutai.jp
E-mail news@r-shinpo.co.jp

入園前の育児も応援
ひろのようちえん
子育てサロン、ご利用ください
http://www.hirono-k.ed.jp

コロナ禍の障害者事業所

売り上げ、収益へ活路見出せ

京田辺 さんさん山城「農福」8％減でしのぐ

山城地域にある障害者事業所でもコロナ禍で、前年から売上や収益が落ち込んでいるところは少なくない。京田辺市にある農福連携センター「さんさん山城」（新免修施設長、藤永実センター長）＝興戸小モ詰＝は2020年度の売上総額を前年度比8％減までに抑えた。出店していた市内外でのイベントが中止・延期される一方で、新たな収入源となる土曜市を始めて客層も拡大。ランチの売上も増えた。農業を軸に脈を広げ新規事業展開も旺盛だ。福祉事業と社会を結ぶコーディネーターは「コロナ禍、今までが通用しない。何を基軸にするかで変わる」とヒントを提供する。

多忙を極める農繁期に向けて準備万端な農業班メンバー

山城北保健所管内にある就労継続支援（A・B型）などを行う障害者福祉サービス事業所は今年度に第4期（2021～23年度）を迎える府工賃向上計画の取り組みを進め、以前は授産製品と呼んでいた障害者が作った製品を「ほっとはあと」の名に改め、売り上げの伸長に努めている。

官民一体の取り組みを推進するNPO法人京都ほっとはあとセンターの「京のはあと製品」応援事業統括・出展事業統括・京都らしい農福連携推進事業統括の澤田雄児さんは「清掃などの役務、スーパーの袋分けなどのOEM（受託作業）では、反対に売り上げを伸ばしているところもある。事業所や施設が、何を基軸にしているかで変わる。発注はないと想像していたが…」とコロナに直面した昨年度と前期の比較について述べる。

昨春、閉館した公的施設では職員が事務作業する傍らで掃除は行われ、巣ごもり需要でスーパーの売り上げもむしろ維持・上昇した背景がある。

一方、菓子箱などが収入源だった施設では観光の凋落もあって「惨たんたる状況」がみられ、「設備投資した直後で、ポスティング、DM封入の作業も持っていたが、箱作業がほぼゼロ。積立金を切り崩し、何とか工賃を出せた」などの例もあったという。

澤田さんは「はっきりしているのは、一つの仕事だけでは昨年と今年の状況に対応できないこと」と言い切る。

緊急事態宣言後にコミュニティカフェを切り盛りする利用者とスタッフ

身も心も柔軟「農業ゆえ」

聴覚や身体、知的障害がある利用者らが活動する就労支援施設「さんさん山城」は11年4月に開所。京田辺の市街地に位置し、ワンコインランチが好評なコミュニティカフェを併設。分け隔てなく誰に対しても開かれたコンセプトが心和ませるムードを醸し出す。

そして、少子高齢化が進む今、担い手が不足する農業と、障害者雇用の充実を目指す福祉の両分野を結ぶ先駆者となっている。

コロナ禍、それまでは できたイベントや市役所での野菜販売などもなくなった。1回目の緊急事態宣言中、次亜塩素酸水の無料配布を開始。危機感が増す中、8月から原則毎月第1週の土曜市をスタートさせた。次亜水で顔を見せ始めた人が会場に足を運んでさらにランチ集客につながった。

夏、敷地内に茂ったブルーベリー狩りも好評。家族連れの常連も増え、イベント消失分をかなり回復。新免施設長は「4月は休んだにもかかわらずランチの売上が前年度比約10％アップ。土曜市は続けていきたい」と声を弾ませる。

コロナ経済支援となる厚労省の工賃補助は申請していない。新免施設長は「農業の機械化には限界がある。茶の手摘み、えびいもの手作業は必須。付加価値を乗せた加工品の開発に力を入れる」「農業だからこそつながる輪を大切に。子供の農業体験や、野菜を使ってもらう業者、料理店も定植、収穫に参加している」、藤永センター長は「農業や自然に目を向けてよかった。農福の強さ」と着地点を踏み固める。

澤田さんは「復活にはほど遠いところがある。さんさんは資源をつぎ込み、転換の努力が成功した」とたたえた。

《ろびーは3面》